

平成19年度 終了評価書

- 研究機関 : (株)日立製作所、(株)KDDI研究所、NTTコミュニケーションズ(株)、(株)インターネットイニシアティブ、日本電気(株)、富士通(株)、KDDI(株)
- 研究開発課題 : 認証機能を具備するサービスプラットフォーム技術
- 研究開発期間 : 平成 16 ～ 18 年度
- 代表研究責任者 : 高瀬 晶彦

■ 総合評価(SABCD の5段階評価) : 評価A

(総論)

機能性能目標は達成しており、外部機関との連携を図るなど有効な研究開発が行われた。今後の標準化などの成果展開に向けた活動に期待したい。

(コメント)

- 安心・安全インターネット推進協議会との連携、情報の提供、協議会の評論の研究への反映を行うなど有効な研究開発が行われた。
- 認証技術として新しい研究開発を行っているわけではなく、大規模システム化が中心のように思われる。従って、標準化、普及などの努力を行わないと、研究開発の意義が小さくなる。
- 引き続き重要なテーマであり、目的とする機能性能は達成したと思うが、潜在顧客が金を出してくれるようになるためのブランド戦略にも留意し、ビジネスとしても成功するよう期待する。
- 技術的には、妥当な成果を挙げていると思われる。ただし、パスワードの数を減らし、フィッシング詐欺を防ぐだけでは物足りない。これだけ大規模なシステムなのであるから、もっと大きな長所が欲しい。また、SSP側が各ユーザの個人情報を把握してしまう、という社会的問題が根本的に横たわっているように思われる。

(1) 事業の目的および政策的な位置付け : 評価A

(総論)

安心・安全なインターネットを早急に実現する上で、国で推進すべき研究開発である。また、複数企業が共同しての研究開発は、標準化機関への提案などの面でメリットも多い。

(コメント)

- 安全安心なインターネットを早急に実現する上で国家の関与は妥当であると思う。
- インターネットの安全安心を確保する技術は引き続き重要である。
- 安全安心をプロバイダー側で保証して行くアプローチは妥当であろう。
- 複数企業が共同して認証プラットフォームを開発することは、標準化機関への提案、インタフェースの規定などメリットも多く意味がある。
- 複数の企業が各社個別に研究開発を行うとともに、合同で実験、実証を行い、安心・安全なサービスプラットフォーム技術の研究開発を行う。
- パスワードの数を減らすだけの目的のためにこのような大規模なシステムを構築するのはコスト的に割に合わないが、本システムはフィッシング詐欺も防ぐことができる。ただし SSP 側は、ユーザがどのようなWeb上のサービスを受けたか、という個人情報を全て知ってしまう。これは、大きな代償である。このような個人情報の漏洩なしに、フィッシング詐欺を防ぐ方法を考案することが今後の課題であろう。

(2) 研究開発目標 : 評価A

(総論)

概ね適切な目標設定が行われているが、事業規模に見合った大きな視点での長所を捉えることも必要。

(コメント)

- 各機能に対する要求性能、システム規模、実証実験などの目標設定は適切である。
- 技術的には妥当であろう。ただし、パスワードの数を減らし、フィッシング詐欺を防ぐだけでは物足りない。これだけ大規模なシステムなのであるから、もっと大きな長所が欲しい。

(3) 研究開発マネジメント(費用対効果分析を含む) : 評価B

(総論)

関係者での意見交換の積極的な実施など、目標達成に向けた努力は認められるが、実証実験で判明した技術的課題・成果等を整理すべき。

(コメント)

- 関与者が多い中でよく打ち合わせなどをしていたように見える。
- 目標達成に誠実に対応しているように見える。
- 概ね良好である。
- 予算規模も大きいにもかかわらず、多くの実証実験で何を得たのかよくわからない。宣伝だけでは研究開発としては物足りない。大規模システムの実験、能力評価のために必要だったのか、利用者に実際に使ってもらうことに意味があるのか明らかにしてほしい。

(4) 研究成果の達成状況 : 評価B

(総論)

処理能力など機能性能目標は達成できているが、論文発表数が目標より少なく、その原因は分析すべき。

(コメント)

- 大規模プラットフォームの実現、処理能力等は目標を達成している。ただ論文発表数が目標よりかなり少ないのは目標自体が多すぎたのか、あるいは個別技術として新しいものが無く、大規模システム化が中心であったためではないか。
- IJ は P2P 技術を性能向上に組み込むことにより、低価格化を可能とした。他は目標どおり。
- 概ね良好である。

(5) 研究開発成果の展開および波及効果 : 評価A

(総論)

特許の数も多く、製品化・標準化のための活動も実施しており、引き続き積極的な成果展開に期待したい。サービス実現にあたっては、基盤側が保有する個人情報管理手法が課題となろう。

(コメント)

- セキュリティ文化の向上に寄与できればよいと思う。
- 特許の数は多いのでうまく利用していただきたい。
- 標準化機関には是非積極的に提案してほしい。
- 製品化、標準化などいろいろやっているが、ビジネスとして成功するには SSP を使うことによるブランド効果を潜在顧客にどう感じさせることができるかであると思う。
- SSP 側が各ユーザの個人情報を把握してしまう、という社会的問題が問題視されなければ、可能と思われる。

(6) その他(広報活動 等) : 評価A

(総論)

標準化などの活動を実施しており、概ね良好である。

(コメント)

- 標準化などはよくやっていると思う。
- 概ね良好である。
- 潜在顧客が金を出してくれるようになるためのブランド戦略も重要だと思う。